

## 現代韓国語の色彩語 — ‘빨강 (赤)’ に関する色彩語を中心に—

張 錫 璟 (チャン・スキョン)

### 1. はじめに

日本語で「顔が赤い」ことを韓国語で表現するには, ‘얼굴이 빨갱다 / 빨갱다 / 벌겱다 / 빨갱다 / …’ などの様々な表現<sup>1</sup>で表すことができ, それぞれにより微妙な意味の違いを表すことができる. 同じ対象(顔)に対して同じ色相(赤)を表現するにも, 状況によって次のように異なる表現ができる(用例は筆者の作例であり訳である):

(1a) 그는 칭찬을 받아서 얼굴이 빨갱다.

(彼はほめられて顔が赤い.)

(1b) 그는 추워서 얼굴이 빨갱다.

(彼は寒くて顔が赤い.)

(1c) 그는 그녀의 농담에 어쩔 줄 몰라서 얼굴이 벌겱다.

(彼は, 彼女の冗談にどうすればいいか分からず, 顔が赤い.)

(1d) 그는 술을 마셔서 얼굴이 빨갱다.

(彼はお酒を飲んで顔が赤い.)

また, 例文(1a)～(1d)の色彩表現も話し手によって変わりうる. たとえば, (1d)用例の ‘술을 마신 그의 얼굴’ (お酒を飲んだ彼の顔)に対して, 次のようにも表現できる:

(1d)’ 그는 술을 마셔서 얼굴이 벌그테데하다.

(彼はお酒を飲んで顔が赤い.)

---

<sup>1</sup> 김주희 (2004 : 32-33) は, 日本語の「赤い」を韓国語で表現できる109の色彩語を羅列している.

韓国語の色彩語は(1d)と(1d)'のように同じ状況において同じ色相を表す場合でも、話し手が対象に対してどのような感情を持ってどのような判断をしているのかも表す場合がある。

話し手から見て(1d)は顔が非常に赤いことを表す反面、(1d)'は品の無い感じで顔が赤みがかかっていることを表す。このため、韓国語母語話者の間でも同一状況における同一対象に対して同一色相を表す色彩表現が必ずしも一致するのではない。

韓国語の色彩表現では、その他に、状況や話し手の判断に頼らず特定の色彩語が特定の形で特定の語彙と頻繁に共起する表現がある：

- (2a) 붉은 태양 (赤い太陽)
- (2b) 빨간 신호 (赤信号)
- (2c) 새빨간 거짓말 (真っ赤な嘘)

(2a), (2b), (2c)においても、状況あるいは話し手の判断によって色彩語は変わりうるが、色彩語と語彙のコロケーション関係<sup>2)</sup>に韓国語母語話者間で社会的に共感できる一定の傾向が見られる<sup>3)</sup>。(2a)は高い頻度で共起すると思われる色彩語と語彙の表現である<sup>4)</sup>。(2b)は色彩語で構成された複合語である。(2c)は慣用表現に色彩語が用いられる場合である。(2a), (2b), (2c)の構造は「形容詞(連体形)+名詞」であるが、「名詞+形容詞(叙述形)」で表すと次のようになる：

- (2a)' 태양이 붉다. (太陽が赤い.)
- (2b)' 신호가 빨강다. (信号が赤い.)
- (2c)' \*거짓말이 새빨강다. (\*嘘が真っ赤だ.)

色彩語が述語になっても(2a)'と(2b)'のように色彩語と名詞の共起関係は有するが、(2a)'の場合、(2a)よりは共起する頻度は低くなる<sup>5)</sup>。(2c)'の場合、色彩語と名詞の共起関係は認

<sup>2)</sup> 南潤珍(2007)は、コロケーションの概念は一定の範囲内で2つ以上の単語が比較的短い距離において共に現れる現象を意味するとし、複合語や熟語および慣用句を含む2つ以上の語彙が共起するものはすべてコロケーションの構造と認める観点を取っている。本稿もこの観点に従う。

<sup>3)</sup> 崔貞伊(2000:17)は物理的刺激特性としての色の感覚を経験しないことには、その色名は何の意味ももたないという。しかし、多くの色名の中には多くの人の反応が短い時間の間にたちまち一致する色名があるという。このような色名は、言語符号化性(codability)が高いとされるという。

<sup>4)</sup> 金仁和(2005:49)は、同じ色であるが、対象によって使用される色彩語が異なり、かなり高い使用頻度で一定な色彩語が選ばれと述べた。金仁和(2005)で行った韓国語母語話者100人に対するアンケート調査によると、対象が‘태양(太陽)’の場合、50人が‘붉다’の色彩語が関連していると選択した。しかし、‘붉다’がどのような語形で用いられるのかは明らかにしていない。

<sup>5)</sup> ‘태양이 붉게 떠오른다.’がより自然な表現となる。

められない。このように、同じ色彩語でもどのような形で現れるのかが語彙とのコロケーションにおいて重要な場合がある。

本研究では、色彩語の使用傾向及び実態をコーパスにより抽出調査し、他の語彙とのコロケーションを考察し、どのような状況でどのような色彩語がどのような語彙と共起するのか、その時の色彩語の形態的、用法的、意味的特徴を検証する。

## 2. 先行研究

### 2.1. 基本色彩語の定義

E.Sapir (1929=E.サピア (1970)) は、色彩知覚も含む「現実の世界」というものは、多くの程度にまで、その集団の言語習慣の上に無意識的に形づくられていると主張した。これに対して、Berlin と Kay (1999) は、98の言語における基本色彩語 (basic color terms) の比較検討により、すべての言語を通して普遍的な基本色カテゴリーが11種類存在するという基本色彩語に関する通文化的普遍性 (the universalism of basic color terms) を主張した。それぞれの言語は、以下のBerlinとKay (1999) の“基本色彩語モデル”のように、左から右の順序に11またはそれより少ない基本色彩語を持つと考えた：

white/black -> red -> green/yellow -> blue -> brown -> purple/pink/orange/gray

さらに、BerlinとKay (1999) は、基本色彩語には次の四つの特性が備わるべきであるという：

- ① 一語彙 (monolexemic) であること。  
意味がその語彙の一部の意味から予測できないこと。
- ② 意味が他の色彩語の意味の中に含まれないこと。
- ③ 適用範囲が狭い分野に限定されないこと。
- ④ 心理的に顕著なものであること。  
(人々が最初に思いつく色彩語であること)

BerlinとKay (1999: 40, 96) によれば、韓国語には11の基本色彩語があるとする。ただし、色彩語に用いられる韓国語の接尾辞はこれらの中で五つの色彩語に限定される：‘하양 (白)-> 하얗다’, ‘검정 (黒)-> 까맣다’, ‘빨강 (赤)-> 빨갱다’, ‘파랑 (青)-> 파랗다’, ‘노랑 (黄色)-> 노랗다’. 従って“基本色彩語のモデル”の基本色彩語の中で、この五つの色彩語が韓国語の固有語の基本色彩語だといえるという。これについて車美愛 (1990) は、韓国語では基

本色彩語の形容詞が数は多くあるが、他の色の場合は名詞形の表現があるだけで形容詞がないという点を指摘している。

김주희 (2004:24-26)によると、韓国語の色彩語の数は伝統的に‘삼색 (三色)’, ‘오색 (五色)’, ‘칠색 (七色)’とされてきた。‘삼색 (三色)’を光の三原色である‘빨강 (赤), 노랑 (黄色), 파랑 (青)’とし、‘오색 (五色)’を‘빨강 (赤), 노랑 (黄色), 파랑 (青), 하양 (白), 검정 (黒)’とし、虹色は‘칠색 (七色)’といい、それを‘빨강 (赤), 주황 (朱黄:だいたい色), 노랑 (黄色), 파랑 (青), 초록 (緑), 남색 (藍色), 보라 (紫)’としてきたという。‘삼색 (三色)’は‘오색 (五色)’にも‘칠색 (七色)’にも入っていて、‘칠색 (七色)’の他の色は‘삼색 (三色)’に色を混ぜ合わせて現れる色なので、結局、基本色は‘삼색 (三色)’と、明度の程度によって区分される‘하양 (白)’, ‘검정 (黒)’を含んだ、‘오색 (五色)’に決めることができると述べている。基本色彩語が五種類になることは、中国の「陰陽五行思想」を基にしている理由だとも述べている。

김주희 (2004)は、色彩対象の状態の変化を表す動詞としての派生が可能な色彩語は、五つの基本色彩語だけだという。つまり、‘하얘지다’, ‘검어지다’, ‘파래지다’, ‘붉어지다’, ‘노래지다’などは現代韓国語でよく用いられているが、‘보라- 보래지다’などは用いられないという。このことは、また五つの色彩語が韓国語の基本色彩語だという根拠になるという。

## 2.2. 基本色彩語の形態・意味・用法

韓国語の基本色彩語について様々な研究が行われている：

青山秀夫 (1966)は、韓国語の色彩形容詞は、母音の陰陽の交替、接尾辞、接頭辞、子音の平音と濃音の交替などいろいろな方法で色を区別しているという。韓国語には派生語が豊かにあるという点に注目し、韓国語の色彩形容詞の基本語と派生語について形態的に概観し、意味的にも調査している。

金仁和 (2005)は、色の意味を基本的意味(色の告知)と脈絡的意味(色が実際使用される場面での意味部分)に分類している。韓国語の固有語の派生色彩語において、脈絡的意味を左右する条件として「状況」と「対象」に注目している。実際の使用場面で基本的意味と脈絡的意味がどの位関与しているかを調べるため、アンケート調査をしている。

權寧成 (2005)は、基本色彩語の派生色彩語の場合、色彩語に追加される接尾辞の数が多く、すべて明度・彩度といった色の度合いの微妙な変化を表すとしている。日韓対照言語学的観点から韓国語の色彩語をさまざまな角度から考察している。



車美愛(1990)は、韓国語の色彩表現は形式の面では非常に多様性に富んでいるが、意味内容および形容対象の観点から見るとかなり限定されていると思われると述べている。特定の色彩(白と黒)の表現が多く、さらに、形容対象は肌の色、顔色の場合が圧倒的に多いとしている。色彩語の韓日対照研究の上で韓国語の色彩表現を各種辞典の記述を調査し整理している。

김영철(2000)は、慣用語に用いられた基本色彩語の形態・象徴意味を韓国の慣習、文化的な背景及び身体的経験などの観点から把握している。

김주희(2004)は、韓国の小学校で使われている三十冊の国語教科書に現れる基本色彩語を対象に、色彩語の種類、頻度、使用用法などを考察している。

송현주(2003)は韓国語の五つの固有語の色彩形容詞を対象に、色彩語の多義の拡張様相を『표준 국어 대사전』, 『연세 한국어 사전』, 『겨레말 용례 사전』の記述を中心に考察している。

신현숙・김영관(2004)は、基本色彩語は、対象の色合い(hue)、色の程度(degree)、感じ(feeling)、状態(state)、肯定(positive)、否定(negative)の意味も表しているという。さらに、基本色彩語の語彙情報を、色彩語の「形態情報」、色彩語が示す「意味情報」、色彩語の用法に関する「活用情報」に分けた。

## 2.2.1. 基本色彩語の形態に関連する研究

### 2.2.1.1. 色彩語の形態による色の区別(色の度合い・色の状態)

青山秀夫(1966)は、インフォーマントによる調査<sup>6</sup>で、基本色彩の中で同一色相(例:붉다, 벌겁다, 빨겁다, 시빨겁다, 발갡다, 빨갡다, 새빨갡다)を対象に、色の明度(明るさ)・彩度(鮮やかさ)を比較している(色彩の三層性)<sup>7</sup>。その結論として、調査対象の色彩形容詞が表現する語感差は「色彩の度合い」であると述べている。陰母音ならば暗さが強調され、陽母音

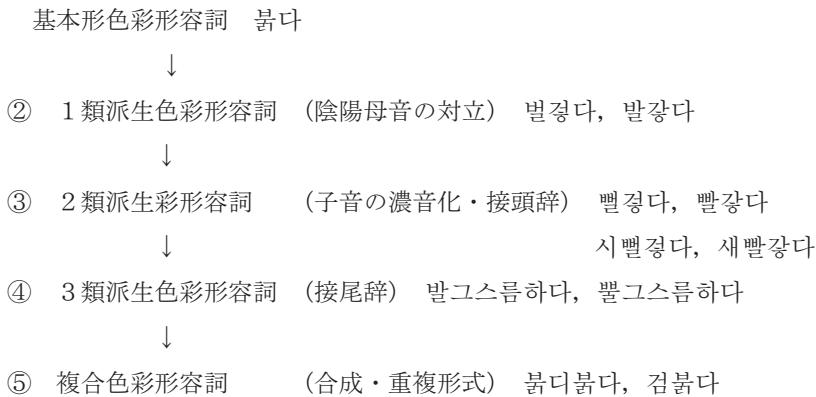
<sup>6</sup> 青山秀夫(1966)によると、インフォーマントによる調査で用いた『色名大辞典』(1964)は、色彩一般に対する体系的な理解と、韓国の三百種に及ぶ色の名称と色の実相との関係の整理を試みたものであり、色名に関する研究は皆無に等しいとも言える当時の朝鮮語研究の事情を考えると、学問的・教育的に意義深いものだと言っている。

<sup>7</sup> 「色彩の三層性」は色相、明度、彩度を意味する。色相は色あい、明度は明るさ、彩度は鮮やかさを示す。

ならば鮮やかさ・明るさが強調され、接頭辞が付いた派生語と濃音の派生語が比較的顕著に「色の度合い」を強調していると指摘している。接尾辞が付いた派生語の場合についての例として ‘불그데데하다, 빨그데데하다, 불그대대하다, 빨그대대하다, 벌그데데하다, 빨그데데하다, 발그대대하다, 빨그대대하다’ などについて述べ、接尾辞(的)要素<sup>8</sup>は‘대대’または‘데데’であるのに対して、他は単に陰陽母音交替、平音・濃音の変化が規則的にあるものだとしている。接尾辞(的)要素の特徴を判別するため、辞書によって意味規定を調べている。そして接尾辞が付いた派生語は「色彩の状態」に関する語感差を表現するという結論を得ている。

### 2.2.1.2. 色彩語の形態的分類

派生の種類によって青山秀夫(1966)は基本色彩語を以下のように分類する：



김주희(2004)は、基本色彩語を形態的に単一色彩語と複合色彩語に分け、さらに複合色彩語は「合成色彩語」と「派生色彩語」に分類している。‘빨강’に関わる「単一色彩語」と「複合色彩語」は以下の例を挙げている：

単一色彩語

붉다

‘어근+어미’形態の色彩語

<sup>8</sup> 青山秀夫(1966)と車美和(1990)は、接尾辞の構成要素である形態素を「接尾辞(的)要素」と定義している。‘빨강’に関わる色彩形容詞に付くものは8種類としている。それらの形態素の種類は- 데데/대대-, - 멩멩/댕댕-, - 스테-, - 무레-, - 숙숙/숙숙-, - 스흘-, - 죽죽/죽죽-を含む。

複合色彩語

「合成色彩語」

(二つの単一色彩語の結合)

검붉다, 검붉그죽죽하다, 희붉다, 희붉그레하다, 희/해뜨벌/발긋하다, 노라  
발깁다

(色彩語と擬態語の結合)

발가야드르르하다, 벌거이드르르하다

(重複形式による結合)

붉으락 푸르락, 붉으락 푸르락하다, 붉으락 누르락, 붉으락 누르락하다, 푸르  
락 붉으락, 푸르락 붉으락하다, 누르락 붉으락, 누르락 붉으락하다

김주희 (2004) は, 合成形態が「語幹1 + 語幹2 + 語尾」の場合, 色彩語が表す事物の色彩は「語幹2」によるもので, たとえば ‘검붉다’ の場合, ‘검은 색을 조금 띤 붉은색’ を意味するという. また, 合成色彩語に見られる色彩語同士の組み合わせの方法について, 權寧成 (2005) は, 無彩色優先の法側によって, 色彩同士が組み合わされているとしている.

「派生色彩語」

붉어지다, 새붉다, 발/빨깁다, 벌/빨깁다, 빨강/빨깁, 새/새빨깁다,  
시/시빨깁다, 새/새빨깁다, 발/빨개지다, 벌/빨개지다, 새/새빨개지다,  
시/시빨개지다, 새빨강하다, 섯빨깁다, 불/불그데데하다, 빨그데데하다, 불/  
발그대대하다, 빨그대대하다, 불/불그뎡뎡하다, 불/발그뎡뎡하다,  
빨그뎡뎡하다, 불/불그레하다, 빨/빨그레하다, 불/발그레하다,  
빨/빨그레하다, 벌구우리하다, 불/발그름하다, 불/벌그름하다, 불/빨그름하다,  
불/발그무레하다, 불/벌그무레하다, 불/벌그속속하다, 불/벌그속속하다,  
불/발그스레하다, 불/발그스름하다, 빨/빨그스름하다, 불/벌그스름하다,  
빨/빨그스름하다, 불/벌그죽죽하다, 빨/빨그죽죽하다, 불/발그죽죽하다,  
빨/빨그죽죽하다, 불/발긋불/발긋, 빨/빨긋빨/빨긋, 불/벌긋불/벌긋,  
빨/빨긋빨/빨긋하다, 불/발긋하다, 빨/빨긋하다, 불/벌긋하다, 빨/빨긋하다,  
불/발긋불/발긋하다, 빨/빨긋불/빨긋하다, 불/벌긋불/벌긋하다,  
빨/빨긋빨/빨긋하다, 붉디붉다, 발/빨깁디발/빨깁다, 벌/빨깁디벌/빨깁다,  
질붉다, 발/불그속속하다, 발/빨/불/빨그죽죽하다, 불/빨/벌/빨그죽죽하다,

발/벌/볼/블그름하다, 발/벌/블그스름하다.

김주희 (2004) は, 派生色彩語では ‘ㅏ : ㅑ’, ‘ㅓ : ㅕ’ の母音対立により濃度の差を表し, ‘ㅏ : ㅑ’ の対立で「弱 : 強」の差を, ‘ㅓ : ㅕ’ の対立は「小 : 大」の語感の差を表すという. 青山秀夫 (1966), 김주희 (2004) は, 上の派生色彩語の接尾辞の構成要素である形態素は, - 데데/대대-, - 땡땡/땡땡-, - 슨레-, - 무레-, - 숙숙/숙숙-, - 슨름-, - 죽죽/죽죽-などで, それらは次を表現するという :

- 데데/대대-, - 땡땡/땡땡- : 친함 (品が無い)
- 숙숙/숙숙- : 수수함 (程好い)
- 죽죽/죽죽- : 고르지못함 (濁っている)
- 슨름-, - 슬레- : 조금 (少し)
- (무) 레- : 얇음 (薄い)
- 이드르르- : 미끈함 (滑らかさ)

### 2.2.1.3. 色彩語の選択の要因 (状況・対象)

金仁和 (2005) は, アンケート調査の第1調査の項目で, 色彩語の選択が主に「色」に基づいているかどうか調べるため, 各基本色系列別に4つの色を提示し, その色に適切だと思われる色彩語を選ばせている. 選択された色彩語にはばらつきがあり, 派生色彩語の区別は「色」の基本的意味だけでは困難で脈絡的意味が作用していると考えられると述べている.

第2の調査の項目では, 「状況」が色彩語の選択にどの位関わっているのか調べるため, 文脈を通して適切だと思われる色彩語を選ばせている. 言語使用者間で共感できる一定な傾向があると述べ, その傾向は派生による語感と密接な関係があると述べている. この場合, 固有語色彩語の派生は, 言語使用者が場面と相手に対する心理を表現する装置であるという.

第3の調査の項目では, 「対象」が, 色彩語の選択にどの位影響を与えるのかを調べている. 色を実際に提示し, その色が使われる典型的な対象を挙げて, 適切だと思われる色彩語を選ばせている. 同じ色であるが, 「対象」によって使用される色彩語が異なり, 高い使用頻度で一定な色彩語が選ばれることが分かったという. これは「状況」より高い数値であり, 「対象」の脈絡的意味としての重要性と, 派生との密接な関連性が分かると述べている.

このことに関して, 權寧成 (2005) は, 韓国語の色彩語は, ものの色彩を表すのみならず, 使用対象に制限のある色彩語, 比喩的用法としての働きが強くなる場合の色彩語があるが, 文脈 (状況・対象) によって選択制限がある色彩語, ‘그녀의 (새) 카만 눈동자 (彼女の真黒き瞳)’ のように文語的な機能を持つ場合もあると述べている. さらに色彩語の使用実態を, 小説

を通して見ていくと、基本色彩語の多くは派生した形を取り、文脈と状況に応じ、さまざまな派生・合成色彩語を巧みにこなしていると述べている。

また、김주희 (2004) は、対象の色を表現する場合、人が心理的に感じる色彩の程度は人によって異なるが、言語表現時はその社会の言語の約束に影響され、社会の構成員として一般的に表現する色彩語を選択するという。しかし、個人の情緒を表現する状況や文学などではそうではない場合があるという。

#### 2.2.1.4. 色彩語の主観的表現（話し手の判断の現れ）

車美愛 (1990) は、基本色彩語の色彩形容詞の語幹のタイプによって、A類（例：‘발갡다’, ‘빨갡다’, ‘벌겡다’, ‘뺨겡다’）とB類（例：‘붉다’）に分け、B類は物の属性としての色を他の色と対比して客観的・抽象的に表すのに対して、A類は現実に見ている物の色に対する、話し手の感じ方を含む主観的・具体的表現であると述べている。例えば、B類の‘붉다’は他の色から区別して「赤い」ことを表現するのに対し、A類の‘발갡다’は「どのように赤いのか」を表現することになるという。‘붉은 얼굴’といえば赤い顔（皮膚）の人を述べており、‘뺨갡 얼굴’, ‘뺨겡 얼굴’といえば何か他に原因（怒り, 飲酒, 恥など）があつて赤くなり、それを話し手の判断、感情でどのようにとらえたかを反映していることになっている。

さらに、微妙な意味の違いを反映する陰陽の母音交替の場合、陽母音を含む表現は色の「鮮やかさ・明るさ」、対象物の「かわいさ、小ささ、弱さ」、話し手の「好印象」などの意味を含むのに対して、陰母音を含む表現は「濁り、くすみ、暗さ」、「大きさ、広さ、強さ」、「不快感」などの意味を表すという。例えば、‘발갡다/빨갡다’は鮮やかな赤、明るい赤を表し、‘벌겡다/뺨겡다’はくすんだ色合いの赤を表すというような違いがあるとしている。どちらかと言えば陽母音表現の方が色に重点をおいた表現であり、陰母音表現は話し手の感情的色彩が強いとしている。一方、同じ色合いの赤でも子供や女性の衣服の赤はかわいさ、自然さのために陽母音表現の方を用い、成人男性の衣服については不自然な印象のために陰母音表現が用いることがあるという。平音と濃音の子音交替は、実際にそれほど多様な意味の違いは意識されず、A類では濃音表現の方がよく用いられているとしている。

色彩の鮮やかさを強調するには接頭辞が用いられ、接尾辞（的）要素による派生表現については、‘발그무레하다（薄赤い）’のような感情的に中立的な表現があるが、‘발그속속하다（ほどよく赤い）’のように、話し手から見て好印象や‘불그뎡뎡하다（不自然に薄赤い）’のように不快感などの感情的色彩を伴うものが多いと述べている。

#### 2.2.1.5. 色彩語の用法の区分

김주희 (2004) は、基本色彩語の用法は、単純に「対象の色相表現」ではなく、「比喩的表

現」, 「状態の変化」, 「情緒の表現」などに用いられるという:

「対象の色相表現」

빨간 옷

「比喩的表現」

새빨간 거짓말 - 악의가 있는 거짓말

붉은 광장 - 공산당

빨간 딱지 - 압류한 물건에 붙은 표지

權寧成(2005)は, 基本色彩語による比喩的表現の場合, 品詞が形容詞によるものが発達していることが確かめられたとしている。

「状態の変化」

얼굴이 붉어졌다. - 부끄러운 일이나 수줍은 일을 당했을 때 표정 변화

김주희(2004)は, 色彩語が「状態の変化」を表す場合, 色彩語が動詞化され変化を表現するという。‘부끄러운’の状況で, 顔色の変化を表す基本色彩語は‘빨개지다’, ‘시빨개지다’などもあるという。

「情緒の表現」

(‘빨강’に関わる「情緒の表現」の例は無いとされる。)

하늘이 노래지다. - 심리적 충격이 클때

김주희(2004)は, 「情緒の表現」は人の心理状態を色と関連し表現することで, 実際の対象の色とは色が異なる表現, または色が無い事物に対して色を与える表現だと述べている。「比喩的表現」の例では, ‘빨강’の連想意味の‘위험, 부정’という否定的な意味が作用された例であるという。「情緒の表現」と「比喩的表現」は, 色彩語の連想の意味と深い関係があり, 個人の主観と一般の認識がうまく調和する時, もっとも理想的な表現になるという。

## 2.2.2. 本色彩語の意味に関連する研究

### 2.2.2.1. 彩語の連想の意味

김주희(2004)は, 基本色彩語の連想の意味として「具体的な連想」と「抽象的な連想」に

分けている：

‘빨강’ の「具体的な連想」

(태양, 불, 사과, 붉은 깃발, 피, 노을, 장미, 입술)

‘빨강’ の「抽象的な連想」

肯定的な連想 (정열, 사랑, 활동, 여름)

否定的な連想 (위험, 전쟁, 혁명, 흥분, 악마, 분노, 공포)

신현숙·김영란 (2004) は, ‘빨강’ 은 ‘화려하고 따뜻함’ の 긍정 (positive) の意味で肯定的に評価される場合と ‘위험, 반대’ の 부정 (negative) の意味で否定的に評価される場合があるとしている. 上の例のように, 김주희 (2004) は, 色彩語の「抽象的な連想」は同一の色彩語が肯定と否定の連想意味を同時に持つという特徴があると述べている.

#### 2.2.2.2. 色彩語の多義の拡張意味 (共に用いられる名詞)

송현주 (2003) は, 基本色彩語の一次的意味は「事物の色相」を示す意味とし, 拡張意味は, 「顔色の変化」を一次的拡張とし, 次に「物理的空間で対象となる事物が現象を表すこと」に拡張され, 次に「時間または空間領域」に拡張され, 最後に「心理的状态または変化を表す」に拡張されるという. 一次的意味と拡張意味の間には明らかな違いがあり, 一次的意味の場合は, 他の色彩語に置き換えても (例: ‘붉은 가방 → 빨간 가방’) 文は成立し, 色彩語を否定 (例: ‘붉지 않은 가방’) にしても文は成立するが, 拡張意味の場合は, 他の色彩語と置き換え (例: ‘붉은 사상 → 빨간 사상’) たり, 否定にする (例: ‘붉지 않은 사상’) と文が成立しないという. また, 他の色彩語とは異なり ‘붉다’ は拡張が活発ではなく, 以下の例文のように ‘공산주의’ を象徴する意味だけに多義拡張されるという:

ㄱ. 그럴 즈음 남면 하수내리에도 붉은 정치 세력은 깊숙이 뻗어 왔다.

<<이정환, 셋강>>

ㄴ. 그는 머릿속에 붉은 물이 들어 있다.

ㄷ. 붉은 정성 『인민학교 국어 (5)』 의회 주권이 왔네. 붉은 주권이 왔네.

上の例のように, ‘붉다’ は ‘공산주의’ 思想と関連がある拡張意味の表現で多く用いられ, ‘붉다’ と共に用いられる名詞は, ‘정치세력, 머릿속에 든 물, 정성, 주권’ などがあるとしている. 신현숙·김영란 (2004) は, その他に ‘사상, 이념’ の名詞を挙げている. 송현주 (2003) は, ‘붉다’ が ‘공산주의’ 思想を示す意味で拡張する場合は, ‘붉다’ を ‘빨강다’ に



換えることができないという。‘빨강다’の場合、辞書での意味は一次の意味以外にはなく、‘거짓말’の名詞と共に用いられる場合だけが‘아주 터무니없는’を表すという。

### 2.2.2.3. 慣用語における色彩語

金仁和(2005)は、基本色彩語の意味は、状況と対象を中心とし色彩語の派生内容と結び付けられ、一定な形態が語用的に高い頻度で使用されると、色彩語の基本意味とは関係なく、慣用表現を生み出していると述べている。

김영철(2000)は、慣用語とは二つ以上の語彙が結合された句あるいは節で、比喩的表現として慣習的に使われ、一つの固まった形で通用される言語表現であるという。つまり、慣用語はある社会、歴史、文化的な慣習が身に付いている母語話者から、簡単に理解され用いられる言語表現として、その構造の語彙要素の意味で用いられるのではなく、第三の新しい意味単位を形成する言語形式だと述べている。

신현숙・김영란(2004)は、韓国語の色彩語が用いられる慣用語は、色彩語の活用が韓国の社会で拡張の意味として固まっている表現で、色彩語が示す意味は、色彩語の形態と意味情報、言語使用者の認知方法と状況が関連されているとしている。

김영철(2000)は、‘빨강’に関わる基本色彩語が用いられる慣用語に、次のようなものがあると述べている：

- ㄱ. 얼굴이 붉어지다 (빨개지다).
- ㄴ. 눈이 빨강다.
- ㄷ. 빨간 (빨간) 거짓말<sup>9</sup>.
- ㄹ. 빨간 (별건, 빨간, 빨건) 상념.
- ㄷ. 빨간줄이 그어지다.

ㄱでは、顔色が赤く変化するのは心理的な現象の反映で、「怒りや恥ずかしさ」などの感情が顔に現れていることを表現しているという。ㄴでは、食欲により精神を集中することによって目が充血したことを表し、「利益を追求する」という意味であるという。ㄷでは、慣習と経験により、内容が真ではないことを簡単に認知できる属性がある「でたらめな嘘」を表すとしている。ㄹでは、「常識がない言動をする人」を非難する表現であり、韓国の過去の身分制度を反映する慣用語だといえるという。ㄷでは、犯罪行為により「前科を持つ」という意味で、この‘빨간’は危険であることを表すという。

---

<sup>9</sup> 신현숙・김영란(2004)は、‘새빨간 거짓말’を同意味の慣用語の例として挙げている。



김영철 (2000) は、慣用語に用いられる基本色彩語の形態は ‘붉다’, ‘발갡다’, ‘빨갡다’, ‘벌갡다’, ‘뺨갡다’ などが用いられて、疊語、接尾辞などによる合成語または派生語は用いられていないという。これは、話し手の主観性が加えられた色彩ではなく客観化された言語表現のためだといえると述べている。‘빨갡’ に関わる色彩語が用いられる慣用語では、意味的な面で、怒り、憎しみ、恥ずかしさなどの感情表現や、嘘、危険、前科などの人間関係で否定的な様相がうかがえるという。

### 2.3. 先行研究の問題点

先行研究によると、韓国語の基本色彩語は派生語が豊富にあり、色相、明度、彩度、色の状態といった色彩の表現に用いられるだけではなく、比喩的表現、状態の変化などにも用いられるという。また、色彩語は話し手の主観的表現にもなり、色彩語の意味は色彩対象と状況によって影響されるという。ほとんどの韓国語の色彩語の先行研究は、色彩語の派生形態と意味関係、色彩語の用法の分類について研究されている傾向が見られる。

송현주 (2003) は、色彩語の多様の意味拡張時に、色彩語と「共に用いられる名詞」に関して述べているが、特定の色彩語と結びつく名詞が他にどのようなものがあるか明らかにしていない。色彩語の使用実態を考察し、実際に色彩語が特定の名詞と現れて、どのように色彩語の意味が実現するかを明らかにする研究は数少ない。

金仁和 (2005) は、色彩語が実際使用される場面で、色彩が用いられる状況よりも、色彩対象が色彩語と密接な関連性があることをアンケート調査で明らかにした。しかし、実際どのような色彩語がどのような対象と関連性があるのか、ランダムに選択された25項目の対象以外には明らかにしていない。また、それらの対象の語彙と色彩語が用いられる時、色彩語がどのような語彙形式で現れるのか明らかにしていない。

김주희 (2004) は、色彩語の種類、頻度、対象、使用用法などの使用実態を分析した。しかし、それらは韓国の小学校で使用されている三十冊の国語教科書に現れる色彩語に限られている。

Wyler (1992 : 154) は以下のように述べている :

From a linguistic perspective, associations evoked by a color and symbolic values attributed to a color are only of significance in so far as they find expression in collocations with figurative meaning in which the color term occurs. This means that symbols based on color as they are listed in the Dictionary of Symbols and Imagery do not necessarily find expression on the level of language.

(言語学的な観点から見ると、色による連想や色の象徴性は、色彩語が用いられる比喩的意味のコロケーション関係の中で表現される時だけ、それらの真の意味が現れるのである。これは、色彩の象徴性が、必ずしも辞書に記述された通りの単語の象徴、イメージで言語表現されるとは限らないことを意味している。)

それゆえ、共起関係 (collocation) に注目し、色彩語が他の語彙との関わりの中で、どのような形、意味で実現されるかを調べる研究が求められる<sup>10</sup>。

### 3. 研究の対象と方法

#### 3.1. 研究対象の色彩語

韓国語の色彩語は、大きく、固有語<sup>11</sup>、漢語<sup>12</sup>、外来語<sup>13</sup>の三つの分類の色彩語に分けることができる。韓国語における色彩語の中で、本研究では、実際の用例から使用実態が確認できる基本色彩を表す固有語に注目する(本研究ではこれらを「基本色彩語」とする)。漢語と外来語は研究対象から除く。

本研究の対象になる色彩語は、コーパス資料から抽出された用例に現れる‘빨강(赤)’に関する基本色彩語とする。実際の色彩語の言語使用を計量的方法で調査することによって、現代において、数多くの韓国語の色彩語の中のどのような色彩語が、どのような語彙とどのように共起するかを考察し、色彩語の形態、意味、用法にはいかなる特徴があるのかを分析する。

#### 3.2. 研究方法

色彩語の使用傾向及び実態を分析するため研究に用いる韓国語の言語資料は、국립국어연구원 (1999) “21 세기 세종계획 균형말뭉치” (The 21st Century Sejong Project) である。

分析の手順は次のとおりである：

- ① “21 세기 세종계획 균형말뭉치” (The 21st Century Sejong Project) 資料の<written (小説)>での全語彙リストを作る。

---

<sup>10</sup> 南潤珍 (2007:617) は、複数の意味を持つ語彙または語句において、その複数の意味のうちどの意味が実現されるかは、他の語彙との関わりの中で決められるとし、隣接する語彙との関係によって意味が特定される現象はコロケーション構成によく表れると述べている。

<sup>11</sup> 本稿では韓国語で ‘빨강, 파랑’ などの外来要素が含まれていない色彩語のことを韓国語の「固有語の色彩語」と称する。

<sup>12</sup> 車美愛 (1990:16) は、‘홍색(紅色)’, ‘주홍색(朱紅色)’ など、漢語の色彩表現は大部分、日本語で用いられているものと共通であると述べている。

<sup>13</sup> 本稿では韓国語で ‘핑크, 베이지’ などの英語から移入してきた色彩語のことを「外来語の色彩語」と称する。

- ② 全語彙リストから基本色彩語を選び、コーパス資料から実際の使用実態が確認できる基本色彩語リストを作成する。
- ③ 基本色彩語リストから、‘빨강 (赤)’に関する基本色彩語の使用頻度の高い順に、色彩語と他の語彙とのコロケーションを分析する。共起する語彙、共起頻度、色彩語の形（派生、品詞、語形）を考察する。
- ④ ③の考察を通して、色彩語の意味・用法に従い分類する。分析においては、複合語、慣用表現なども対象に入れる。

#### 4. 基本色彩語の分析

##### 4.1. 色彩語の頻度

“21 세기 세종계획 균형말뭉치” (The 21st Century Sejong Project) 資料の<written (小説)> 全語彙 (420,621語彙)の中から、実際の使用実態が確認できる基本色彩語リストを作成し、‘빨강 (赤)’に関する基本色彩語を抽出した。それらの語彙の頻度を以下に示す：

	<u>語彙の頻度</u>
五つの基本色彩語	4594
‘빨강 (赤)’の基本色彩語	1015

##### 4.2. 色彩語の形態

上の‘빨강 (赤)’の基本色彩語を、形態の種類に分類した。そして42になる色彩語の基本形を、김주희 (2004)に従い分類すると、<表1>のようになる。

<表1>を見ると、ここでもっとも用いられている基本色彩語の形態は、単一色彩語である‘붉다’と派生色彩語の‘빨강다’であることが分かる (全基本色彩語の50%)。また、‘발가야드르하다’, ‘벌거이드르르하다’のような色彩語と擬態語の結合の形の色彩語は、“21 세기 세종계획 균형말뭉치” 資料<written (小説)>の中の語彙では見当たらなかった。‘검다’以外の単一色彩語と結合する「合成色彩語」も見当たらなかった。

<表 1> 基本色彩語の形態的分類

分 類		色 彩 語	頻度	
単一色彩語		붉다	333	
複 合 色 彩 語	二つの単一色彩語 の結合	붉디붉다	1	
		검붉다	35	
		검붉어지다	2	
	色彩語と擬態語の 結合			0
	合 成 色 彩 語	重複形式による結 合	불긋불긋하다	
			붉으락	各1
			붉으락 푸르락	
			붉으락 푸르락하다	3
			붉으락 푸르락해지다	各1
			빨긋빨긋하다	
	複 合 色 彩 語	말가우리하다, 말그스름하다, 말그죽죽하다, 불그리하다, 불그스럽하다, 불그스름하다, 불그죽죽해지다, 붉으레하다, 붉으죽죽하다, 붉혀가다, 빨개지다		各1
		말갠다		26
		말개지다		5
		말그대대하다, 말그레해지다		各2
		말그레하다		7
		말그스레하다		4
		불그스레하다, 불그죽죽하다, 빨강		各8
		불그레하다		16
		불그레해지다		6
붉어지다		46		
붉히다		73		
빨갠다		185		
派 生 色 彩 語	빨개지다		50	
	빨갱이		68	
	빨겉다		21	
	새 빨갠다		23	
	시빨개지다		9	
	시빨겉다		55	
씻별겉다		3		

品詞別に分類すると次のようになる（数はそれぞれの形態の頻度を表す.）：

- 名詞    빨강 (8)  
         빨갱이 (68)
- 副詞    붉으락 (1)  
         붉으락 푸르락 (1)
- 形容詞  검붉다 (35), 발가우리하다 (1), 발갡다 (26),  
         발그대대하다 (2), 발그레하다 (7), 발그스레하다 (4),  
         발그스름하다 (1), 발그죽죽하다 (1), 불그레하다 (16),  
         불그리하다 (1), 불그스럼하다 (1), 불그스레하다 (8),  
         불그스름하다 (1), 불그죽죽하다 (8), 불긋불긋하다 (1),  
         붉다 (333), 붉디붉다 (1), 붉으락 푸르락하다 (3), 붉으레하다 (1),  
         붉으죽죽하다 (1), 빨갡다 (185), 빨긋빨긋하다 (1), 빨징다 (21),  
         새빨갡다 (23), 시빨징다 (55), 시빨징다 (3)
- 動詞    검붉어지다 (2), 발개지다 (5), 발그레해지다 (2),  
         불그레해지다 (6), 불그죽죽해지다 (1), 붉어지다 (46),  
         붉으락 푸르락해지다 (1), 붉히다 (73), 붉혀가다 (1),  
         빨개지다 (50), 빨개지다 (1), 새빨개지다 (7), 시빨개지다 (9)

以上のことから、色彩語は名詞、副詞、形容詞、動詞で用いられるのが分かる。この資料でもっとも用いられる色彩語の品詞は、形容詞（色彩語頻度の72%）で、次に動詞（色彩語頻度の20%）である。名詞としては、‘빨강’（8）と‘빨갱이’（68）がある。しかし、‘빨갱이’は限定された資料の中で用いられると思われる。この資料で頻度がもっとも高い色彩語の種類は、形容詞では‘붉다’（333）であり、‘빨갡다’（185）である。動詞では、‘붉히다’（73）がもっとも用いられている。形容詞では‘새빨갡다’（23）よりは、‘시빨징다’（55）が用いられ、動詞では、派生の形が‘빨개지다’（1）よりは、‘빨개지다’（50）の方が用いられるのが注目される。

#### 4.3. 色彩語と色彩対象

本稿では、どのような色彩語とどのような色彩対象が共起関係であるかを分析する上で、まず色彩語の形容詞の連体形とどのような名詞が共起するかを考察する。

<表2> 色彩形容詞 (連体形) と現れる名詞

	붉은	빨간	시뻘건	불그레한	빨건	새빨간	벌건
「火」に関する名詞	불, 불길, 불꽃	불, 불기둥, 불길, 불꽃, 불씨, 숯불	불, 불기둥, 불길, 불꽃, 불씨, 숯불		불꽃		
「自然現象」に関する名詞	구름, 낙조, 노을, 놀, 태양 저녁햇살, 석양, 황혼, 햇빛, 거품, 광염, 안개 흙먼지, 흙바람	해		빛살		노을빛	
「色彩」に関する名詞	빛, 빛깔, 색, 색감	빛, 색					
「字, 形」に関する名詞	글씨, 동그라미, 선, 테, 꽃무늬	글씨, 글짜, 점, 줄, 줄무늬					
「照明」に関する名詞	불빛, 전등불, 전등 빛, 조명, 경계등, 등, 비상등, 형광등	신호, 불, 등, 전등		등잔불빛			
抽象的な名詞	마음, 사상, 세상						

<表3> 色彩形容詞 (連体形) と現れる名詞

	붉은	빨간	불그레한	빨건	시빨건	새빨간	별건
「身体」に関する名詞	눈, 눈알, 머리, 심장, 얼굴, 여드름, 입술, 잇바다, 혀바다	머리, 볼, 손톱, 입술, 잇몸, 잇바다, 혀바다	그의 눈, 얼굴, 비곗살	눈, 얼굴, 심장	눈, 목젓, 얼굴, 잇몸, 타액	눈, 입	얼굴
「血液」に関する名詞	선혈, 피, 핏물	실핏줄, 핏방울		피, 핏줄	선혈, 피	선혈, 피	
「衣類」に関する名詞	넥타이, 단추, 끈, 땀기, 등산 모자, 띠, 머리띠, 장갑, 주름치마, 치마, 코트 자락	고시마기, 구두, 끈, 내의, 마후라, 모자, 빵모자, 털모자, 속옷, 스웨터, 원피스, 주머니, 티셔츠			마후라	띠, 반바지, 원피스	
「乗り物」に関する名詞		스포츠카, 자전거, 전차					
「植物」に関する名詞	꽃사과, 벚나무잎, 소나무, 팔	고추, 꽃, 단풍잎, 산딸기, 장미				꽃, 나뭇잎	
「建物」に関する名詞	기와집, 벽, 벽돌, 지붕	기와, 기와집, 문, 벽돌 건물, 벽돌담, 지붕, 풍차		집들	벽돌		

<表4> 色彩形容詞 (連体形) と現れる名詞

	붉은	빨간	불그레한	빨건	시빨건	새빨간	벌건
他の「身の回りの物」に関する名詞	깃발, 도장, 딱지, 루즈, 종이꽃, 보자기, 양탄자, 주단, 카페트	경대, 딱지, 라디오, 손잡이, 전화, 사인펜, 지우개, 떡볶기, 약, 형균, 이불					

韓国語の色彩語の形態と共に現れる, 色彩表現される「対象」の名詞は, 表2, 3, 4のようである. 次に, 色彩語選択の主な要因を探るため, 色彩語の表現特徴によって, 色彩語と名詞の共起関係を考察する. 色彩語は, 事物の色相を表す「基本的意味」の表現と, 比喩的な「拡張的意味」の表現で用いられる. それぞれの場合に, どのような色彩語とどのような名詞が, どのような色彩表現の「状況」で共起するのかを考察する.

#### 4.3.1. 「基本的意味」の色彩語と現れる名詞

「赤い」を表す「基本的意味」の表現で色彩語が用いられる時, 色彩対象の名詞が ‘붉은’, ‘빨간’ と共起する場合と, ‘붉은’, ‘빨간’ 以外の色彩語と共起する場合に分けて分析することにする. 表2, 3, 4から, ‘붉은’, ‘빨간’ の色彩語は, 他の色彩語と比べ, 多様な名詞と共起関係にあることが分かる.

##### 4.3.1.1. ‘붉은’, ‘빨간’ と共起する場合

同じ名詞の色彩対象が, ‘붉은’ (赤い) と ‘빨간’ (赤い) で同じように色彩表現される場合がある. たとえば, 次の例文では, ‘벽돌’ (レンガ) は ‘빨간’ と ‘붉은’ の色彩語と共起し, 同じく「赤いレンガ」の ‘건물’ (建物) を表している.

(3a) 양동 입구에 들어서니 빨간 벽돌의 삼사 층 건물들이 보이면서  
지저분하고 비좁은 골목들이 이리저리 엇갈렸다.

(3b) 붉은 벽돌로 제법 아담하게 지은 빌딩식 삼층짜리 건물이었다. 최근에 새로 지은 건물이 분명했다.

表2, 3, 4の名詞の中には, ‘빨간’よりは‘붉은’の色彩語と共起する傾向がある名詞



がある。次は、‘노을’（夕焼け）と‘붉은’が共起し、「赤い夕焼け」を表している例である。

- (4) 원기는 긴 그림자를 끌며 5년 만에 다시 고향땅을 밟았다.  
 마을 어귀의 당나무 머리숱은 붉은 노을에 젖어 있었다.

反対に、‘붉은’よりは‘빨간’の色彩語と共に現れる名詞があることが、表2, 3, 4から分かる。次の例文では、名詞と共起する色彩語は‘빨간’の色彩語がより適切である。

- (5a) 흔하고 어딘가 천박해 보여서 빨간 장미는 딱 질색이었는데 굳이 말을 안  
 해도 효철은 매번 노란 장미를 들고 왔으니가.
- (5b) 다희의 빨간 스포츠카는 날렵하게 인천을 빠져 나왔다.
- (5c) 수호는 그가 생일선물로 준 빨간 티셔츠를 입고 있었다.

ここでは、‘장미’（バラ）、‘스포츠카’（スポーツ・カー）、‘티셔츠’（Tシャツ）と、‘붉은’よりは‘빨간’との共起関係が見られ、それぞれ「赤いバラ」、「赤いスポーツ・カー」、「赤いTシャツ」を表している。

ここまでは、色彩表現される「対象」がどのような名詞であるかによって、‘붉은’と‘빨간’、‘붉은’または‘빨간’の色彩語が現れる場合を見た。次は、名詞が‘붉은’と‘빨간’で表現されるが、色彩表現される「状況」が‘붉은’を選択する要因となるか、あるいは‘빨간’を選択する要因となる場合である。

- (6a) 아른거리는 귀녀 모습을 힐끔 쳐다본다.  
 알뜰하고 빨간 입술, 입매를 조금 비틀며 희미한 웃음을 머금는다.
- (6b) 박선생의 차마 감지 못한 눈동자엔 도살된 소의 까뒹집힌 눈빛이 아니라  
 푸르게 갠 하늘을 보는 듯한 해맑은 청기가 감돌았고 핏기가 가지지 않은 붉은 입술엔 한가닥 슬픈 미소의 꼬리가 물려 있었다.

名詞が‘입술’（唇）の場合、‘빨간’と‘붉은’の色彩語で同じく「赤い唇」を表す。しかし、‘입술’（唇）と‘빨간’が共起するか、‘입술’（唇）と‘붉은’が共起するかの選択は「状況」が要因となる。(6a)の‘귀녀’（女性）の唇の色彩を表す場合は‘빨간’、(6b)のように死体などの‘핏기가 가지지 않은’（血の気が残っている）唇の色彩を表す場合は‘붉은’で

表現される場合が多い。

また, ‘불’ (灯) は, ‘빨간’ と ‘붉은’ で表現される場合があるが, 次の例文の「状況」からは, ‘빨간’ の色彩語が選択されることが分かる。

(7) 그녀는 뛰어가 백화점 옆의 작은 횡단보도를 건넜다. 그녀가 건너자마자 빨간 불이 켜졌다.

‘횡단보도’ (横断歩道) にある「赤い灯」, つまり「赤信号」を意味する場合, ‘불’ は ‘붉은’ ではなく ‘빨간’ と共起関係にある。

#### 4.3.1.2. ‘붉은’, ‘빨간’ 以外の色彩語と共起する名詞

ここでは, 色彩対象となる名詞と, ‘붉은’, ‘빨간’ 以外の色彩語との共起関係を考察する。この場合, 色彩語の用法は, 「赤い」を表す「基本的意味」の表現に加え, 色彩対象のより詳しい「色の状態」, 「否定的な様子」, 「異様な様子」, 「(顔) 色の様子」などの表現も含む。色彩表現する「状況」などによって, 色彩語はこれらの表現のため選択される。

次の例文では, ‘허리’ (腰) の ‘비곗살’ (脂肪肉) の色相を表現するだけでなく, 「色の状態」が「うっすら赤い」ことを表すため, ‘불그레한’ (赤い) の色彩語が用いられる。

(8a) 춘하는 혈렁한 푸른색 튜리닝바지에다 위에는 낙하산 무늬가 어지럽게 새겨진 고등학생 교련복을 걸치고 있었는데 옷자락이 짧아 들썩할 때마다 허리의 불그레한 비곗살이 비어져나왔다.

また, (8b) での ‘불그레한’ (赤い) は, ‘등잔불빛’ (ランプの光) の「色の状態」を表す。この場合, ‘쓰러지면서’ (倒れながら) 見た ‘등잔불빛’ は, 「うっすら赤い」状態だということを表している。

(8b) 그는 마당 한가운데서 철퇴를 맞은 늙은 소처럼 쓰러지면서, 불그레한 등잔불빛을 보았다.

次は, 色彩語が, 名詞の色相を表現するだけでなく, 「否定的な様子」も含めた表現をする場合である。

(9) 비단도 아니고, 다우다도 아니고 뭔지는 몰라도 속이 다비치는 그

시빨건 마후라를 목에다 감았다, 모자에다 꽃상여같이 동여감았다  
별별짓을 다 했지요. 읍내 사람이면 다 지 승을 보는데 눈하나 깜빡도  
않고 다녔지요.

‘뭔지는 몰라도’ (何だか分からないけれど), ‘승을 보는데’ (悪口を言うのに) などの否定的な表現で示された「状況」から, 色彩表現される ‘마후라’ (マフラー) が「否定的な様子」(不快感) であることを ‘시빨건’ (赤い) の色彩語で表している.

次は ‘잇몸’ (歯ぐき) と共起する 2 つの色彩語の例を比較する.

(10a) 그녀는 문 밖에서 있는 K를 발견하는 순간 그 빨간 잇몸과 흰 치아를  
드러낸 채 그 화려한 미소를 활짝 지으며 말했다.

(10b) 갑자기 술꾼들은 그 괴물이 으르렁거리면서 입밖으로 시빨건 잇몸을  
드러내는 것을 보았고 문득 몸서리를 쳤다. 괴물은 서서히 기지개를  
쳐고 있었다. 그리고 다시 한 번 흉포하게 으르렁거렸다.

(10a) では ‘그녀’ (彼女), ‘화려한 미소’ (華やかな微笑み) などから窺える「状況」から, ‘빨간 잇몸’ (赤い歯ぐき) は, どちらかと言えば肯定的な様子に表れるが, (10b) の ‘시빨건 잇몸’ (赤い歯ぐき) は, ‘시빨건’ (赤い) の色彩語によって ‘잇몸’ が「否定的な様子」(恐怖) であることを表している. 色彩表現の「状況」としては, ‘괴물’ (怪物), ‘몸서리를 쳤다’ (体を震わした), ‘흉포하게 으르렁거렸다’ (凶悪にほえた) などの否定的な表現がされていて, そのような「状況」に適切な色彩表現が色彩語によってされている.

(11) は, ‘놈’ (奴, 敵対意識を持った相手) の ‘피’ (血) を表現する時に, 「否定的な様子」(嫌う) を ‘시빨건’ (赤い) で色彩表現している例である.

(11) 쓰러진 놈의 앞이마에서 시빨건 피가 흘렀다.

また, (12a) は, 色彩語が名詞の色相を表現するだけではなく, 普通ではない「異様な様子」を表現する場合である.

(12a) 그중에 한 가지 인상이 깊은 것은 어느 큰 거리 한 뿌다귀에 벽돌 공장도  
아닐 테요 감옥도 아닐 터인데 시빨건 벽돌만으로, 무슨 큰분묘 (墳墓) 와  
같이 된 건축이 웅크리고 있는 것이다. 현은 운전수에게 물어 보니,

경찰서라고 했다. 또 한 가지 이상하다 생각한 것은, 그림자도 찾을 수 없는, 여자들의 머릿수건이다.

‘이상하다’ (おかしい) などの表現で「状況」が窺えるように, 色彩表現された ‘벽돌’ (レンガ) は「異様な様子」(おかしい) であることを ‘시빨건’ (赤い) の色彩語で表している.

(12b) は, ‘엄마의 분위기’ (母の雰囲気) などの表現の「状況」から, 色彩表現された ‘원피스’ (ワンピース) が「異様な様子」(独特) であることを, ‘새빨간’ (赤い) の色彩語で表している.

(12b) 언니가 입고 있는 몸에 착 달라붙은 새빨간 원피스도 생각해 보면  
엄마의 분위기였던 것이다.

(12c) は, ‘한여름도 아닌데’ (真夏でもないのに) などの表現で「状況」が分かるように, 色彩表現された ‘반바지’ (半ズボン) が「異様な様子」(不適切) であることを ‘새빨간’ (赤い) の色彩語が強調している.

(12c) 한여름도 아닌데 새빨간 반바지를 입고 있는 정혜는 반갑지도 않고  
싫지도 않은 듯 무덤덤한 표정이었다.

表3からは, 色彩対象の名詞が ‘얼굴’ (顔) の場合, 多様な形態の色彩語が共に現れることが分かる. これは, 色彩語が, ‘얼굴’ (顔) の色相の表現に加え, 様々な「状況」における「顔色の様子」の表現に用いられるためである.

次の例文の色彩語は, ‘손발을 한 군데로 모아 매달려 있기’ (手足を一箇所にしておろ下がる), ‘피가 몰려’ (血が一箇所に集まって) の「状況」で, 「顔色の様子」がどうなのかを表現している.

(13a) 일어선 자세로 있는 것은 쉬우나 손발을 한 군데로 모아 매달려 있기란  
죽을 맛이였다. 원무과장은 피가 몰려 시빨건 얼굴로 꺽꺽했다.

‘시빨건 얼굴’ (赤い顔) では, 「とても赤い」「顔色の様子」を色彩語 ‘시빨건’ (赤い) で表している.

次は, 色彩語が「お酒で赤い」「顔色の様子」を表現している例である.

(13b) "에? 그래 그건 어떡하셨소?" "그거라니?" 안경잡이는 탄창을 붙이는  
말눈치다. "아, 저 토지 사건 말씀요."얼금뱅이는 주기가 도는 빨긴  
얼굴이 한층 더 붉어지는 듯하며 여전히 난로를 등지고 서서 묻는다.

色彩語 ‘빨긴’ (赤い) は, ‘주기’ (酒氣) によって赤い「顔色の様子」を表している. 同じく (13c) の色彩語 ‘별긴’ (赤い) は, ‘술냄새’ (お酒の匂) がする「状況」から, 「お酒で赤い」 「顔色の様子」を表している.

(13c) 때 맞춘 듯 밖에서 인기척이 나더니 김기용이 별긴 얼굴로 들어와  
술냄새를 확확 풍겼다.

しかし, 同じ色彩語の ‘별긴’ (赤い) は, (13d) と (13e) で「怒りで赤い」 「顔色の様子」を表現している.

(13d) 성난 사과처럼, 의경들이 별긴 얼굴들을 쳐들고 흥분하기 시작하였다.

(13d) の色彩語 ‘별긴’ (赤い) は, ‘성난 사과처럼’ (怒ったりんごみたいに) ‘흥분’ (興奮) する「状況」で, 「顔色の様子」を表している.

(13e) 햇도는 그래도 자존심이 다 회복되지 않은 모양인지 별긴 얼굴에 가쁜  
숨을 식식거렸다.

さらに (13e) の色彩語 ‘별긴’ (赤い) は, ‘자존심’ (自尊心) が傷つき ‘숨을 식식거렸다’ (息が荒くなる) ほど「怒りで赤い」 「顔色の様子」であることを表している.

次の例文での色彩語は, 「満ち足りて赤い」 「顔色の様子」を表現している.

(13f) 평산은 부채 든 팔을 천천히 내저으며 불그레한 얼굴에 웃음기마저 띠고  
팔자걸음의 거만한 태도로 그 앞을 지나간다.

色彩語 ‘불그레한’ (赤い) は, ‘거만한 태도’ (傲慢な態度) を示す「状況」で, 傲慢な「満ち足りて赤い」 「顔色の様子」を表している.

(13g) 선비의 불그레한 얼굴을 결눈질해 보는 감독은 귀여운 듯이 빙긋이 웃었다.

(13h) 그래서 그녀는 지루한 귀로에 처음에는 자연히 동정어린 상냥한 미소를 띠고 있었다. 그러나 이윽고 중년의 부친과 딸은 차차 얼굴이 창백해져서 프랜시스 의 귀엽고 불그레한 얼굴이 푸르죽죽해지고 탐스럽던 얼굴 생김이 여느 때의 차분한 아름다움을 잃고 본래의 윤곽으로 되돌아감에 따라 차차 코우프는 이 두 사람이 편히 쉬고 있을 때에는 무엇 하나 공통된 점이 없었는데 불쾌해지면 서로 다투는 것을 깨달았다.

(13g) と (13h) での色彩語 ‘불그레한’ (赤い) は, ‘귀여운 듯’ (可愛いと思うのか), ‘귀엽고’ (可愛くて) という「状況」で, 可愛さがあり「満ち足りて赤い」「顔色の様子」を表している.

また, 「健康的で赤い」「顔色の様子」は, 次のように色彩語で表現されている.

(13i) 그러나 몸은 꽤 비대해서 그의 불그스레한 얼굴빛과 탄력있어 보이는 체구가 건강을 자랑이라도 하듯 우람했다.

色彩語 ‘불그스레한’ (赤い) は, ‘건강을 자랑이라도 하듯’ (健康を自慢するような) 「健康的で赤い」「顔色の様子」を表している.

次の例文では, 色彩語は「疲れて赤い」「顔色の様子」を表現している.

(13j) 하루 종일 보망에다 투망일까지 마친 선원들은 물간 오징어같은 불그죽죽한 얼굴색을 하고 하나씩 배 밑창으로 들어가고 있었다.

色彩語 ‘불그죽죽한’ (赤い) は, ‘하루 종일 보망에다 투망일’ の一日中の重労働後の「疲れて赤い」「顔の様子」を表現している.

また, 他の「顔色の様子」は次の色彩語で表現されている.

(13k) 근술은 뱃사람답게 별에 그을린 검붉은 얼굴인데 봉산은 경강의 강상답게 기름한 얼굴에 낮빛이 선비처럼 희고 깨끗하다.

色彩語 ‘검붉은’ (赤黒い) は, ‘별에 그을린’ (日焼けした) 「状況」の「日焼け後の」「顔色の様子」を表現している.

#### 4.3.2. 拡張的意味の色彩語と現れる名詞

色彩対象の名詞に対して、色彩語が色を告知する用法ではなく「拡張的意味」の表現で用いられることがある。この場合、どのような名詞がどのような色彩語と共起し、その時の色彩表現される「状況」はどうかを考察する。

まず、名詞と色彩語の共起関係によって象徴的な意味を表現する場合がある。

(14a) 그것은 최 의원의, 너 같은 자식은 호적에서 빨간 줄 하나 그어 버리면  
그만이다는 식의 철저한 무관심, 냉정한 포기의 표현인지도 몰랐다.

(14b) 면사무소에 가서 호적등본, 신원증명원, 주민등록등본을 각각 세 통씩  
떼었다. 해숙의 이름 위에는 붉은 줄이 가로질러 그어져 있었다.

(14a) の‘호적’（戸籍），(14b) の‘호적등본’（戸籍謄本），‘신원증명원’（身元証明），‘주민등록등본’（住民登録証），‘해숙의 이름 위에’（ヘスックの名前の上に）などから窺える「状況」において，名詞の‘줄’（線）と色彩語の‘빨간/붉은’が共起し，‘빨간/붉은 줄’（赤い線）は「（戸籍などから）名前の削除」の象徴的な意味を表す。

また，次の例文の‘ 거짓말 ’（嘘）と共起する‘ 새빨간 ’は色彩の意味ではなく「まぎれもないさま」を表現している。‘ 새빨간 거짓말 ’は，慣用句として‘ 터무니없는 거짓말 ’（真っ赤な嘘）の意味になる。

(15a) 다른 사람이라면 혹 속아넘어 갈는지도 모르겠지만, 그러나 세진은 그것이  
새빨간 거짓말이라는 것쯤 오랜 경험을 통해 익히 알고 있었다.

‘새빨간 거짓말’は，次の例文のように‘ 시빨건 거짓말 ’と表現される場合がある。

(15b) 그나마 믿었던 덕호까지도 저런 시빨건 거짓말을 하는 것을 들으니,  
이젠 다시는 선비를 가까이하지 않고 내보내려는 심산인 것을 깨달았다.

‘믿었던 덕호까지도’（信じていたトッホまでも）という「状況」から窺えるように，さらに否定的な要素を含む表現をする場合，慣用句の色彩語を‘ 시빨건 ’で代用して‘ 시빨건 거짓말 ’（真っ赤な嘘）ということができる。

また，次の例文での‘ 붉은 ’は，「赤い」という色相の意味ではなく，「拡張的意味」の表現で用いられている。

(16a) 지금이라도 늦지 않다. 전향한다고 한마디만 말하면 여러분들은 따뜻한 대한민국의 품안에서 새로운 삶을 누릴 수 있을 것이다.

그러나 붉은 사상에 매달려 끝까지 미련을 피우고 고집을 부리면 여러분 앞에 남아 있는 길이란 죽음밖에 없다.

(16b) 너 서방은 예비검속으루 처형됐구, 그래서 네넨은 미국 정부에 양심을 품었지? 네. 붉은 세상이 평생 갈 줄 알었지? 네.

例文の‘사상’, ‘세상’의名詞と共起する色彩語の‘붉은’は, ‘공상당’(共産主義)を意味し, ‘붉은 사상’(共産主義思想), ‘붉은 세상’(共産主義の世)を表現している.

例文(17)の‘마음’(心)と共起する‘붉은’も, 「赤い」という色相の意味ではなく「拡張的意味」の表現で用いられている.

(17) 뒷동산에 동백꽃 피는 그리운 내 고향 바람이 불어와 꽃송이 시냇물에 떨어지네. 빨래터 순이는 꽃송이 보거든 내 붉은 마음인 줄 알런지. 허선생의 노래는 아름다웠고 애절했다.

‘순이’(スニイ), ‘내’(私の)などの「状況」から, ‘붉은’は‘마음’(心)と共起し‘붉은 마음’(恋心)を表している.

これまでの用例を通して, 特定の名詞と色彩語が共起する場合, 色彩語は色を表す機能を失い, 色彩対象の名詞と新しい意味単位を形成することを考察した. この場合, 色彩語を他の色彩語に置き換えることは限定され, 次のように連体形を叙述形に置き換え表すことはできない:

‘빨간 줄’(書類での赤い線) --->

\* ‘줄이 빨강다’(線が赤い)

‘붉은 줄’(書類での赤い線) --->

\* ‘줄이 붉다’(線が赤い)

‘새빨간 거짓말’(真っ赤な嘘) --->

\* ‘거짓말이 새빨강다’(嘘が真っ赤だ)

‘시빨진 거짓말’(真っ赤な嘘) --->

\* ‘거짓말이 시빨강다’(嘘が真っ赤だ)



- ‘붉은 사상’ (共産主義思想) --->  
 \* ‘사상이 붉다’ (思想が共産主義だ)
- ‘붉은 세상’ (共産主義の世) --->  
 \* ‘세상이 붉다’ (世が共産主義だ)
- ‘붉은 마음’ (恋心) --->  
 \* ‘마음이 붉다’ (心が熱い)

## 5. まとめ

日本語で「赤い」ことを韓国語の固有語で表現するには、김주희 (2004:32-33) が羅列する109の基本色彩語を用いることができる。本稿では、現代韓国語の使用実態が確認できる基本色彩語を検討するため、“21 세기 세종계획 균형말뭉치”(The 21st Century Sejong Project) コーパス資料の<written (小説)>の全語彙の中から、‘빨강 (赤)’に関する基本色彩語を抽出した。その結果、抽出された1015の色彩語の中で、もっとも用いられている色彩語の形態は派生の形(63%の色彩語)であり、もっとも用いられる色彩語の品詞は、形容詞(72%の色彩語)であることが分かった。そして、これらの色彩語の特徴を検討するため、色彩語と他の語彙とのコロケーションに注目し、色彩語がどのような形態で特定の語彙と一緒に現れるか、その時の用法、意味はどうなるのかを検討した。

今回の分析では、色彩語の形容詞(連体形)と色彩「対象」となる名詞の共起関係を考察し、色彩語が色相を表す「基本的意味」の表現をする場合と、比喩的な「拡張的意味」の表現をする場合に、どのような形態の色彩語がどのような名詞と共に現れるのかを分析した。

色彩語が「基本的意味」の表現をする時、名詞によって‘붉은’, ‘빨간’ と共起する場合と、色相の表現に「色の状態」, 「否定的な様子」, 「異様な様子」または「(顔)色の様子」の表現を加えるため、名詞が他の形態の色彩語と共起する場合がある。「色の状態」は‘불그레한’の色彩語で、不快感、恐怖、嫌うなどの「否定的な様子」は‘시뻘건’の色彩語で、また普通ではない「異様な様子」は‘시뻘건’, ‘새빨간’の色彩語で、名詞が表現される例を見た。さらに、名詞が‘얼굴’(顔)の場合に「顔色の様子」を表現するため、‘시뻘건’, ‘빨간’, ‘벌건’, ‘불그레한’, ‘불그스레한’, ‘불그죽죽한’, ‘검붉은’の色彩語が、色彩表現される「状況」によって選択される例を見た。また、例文で示された「状況」での‘시뻘건 잇몸’(赤い歯ぐき), ‘시뻘건 벽돌’(赤いレンガ), ‘시뻘건 얼굴’(赤い顔)の表現では、‘시뻘건’が、色相の表現に加え「恐怖の様子」, 「おかしい様子」, 「とても赤い様子」を表すことが分かる。このように、同じ色彩語でも、色彩表現の「状況」によって色彩語の意味が異なるという現象が生じる。

色彩語が「拡張的意味」の表現となる場合、共起する名詞は‘술’(書類での線), ‘거짓말’(嘘), ‘사상’(思想), ‘세상’(世), ‘마음’(心)などであり、名詞によって‘붉은’, ‘빨간’, また

は‘새빨간’の色彩語が選択される。この場合、表現によっては‘시뻘건’で色彩語が代用され、否定的な要素を含む表現になることもある。しかし、色彩語を形容詞の連体形から他の品詞、形に変えることはできない。また、‘붉은 사상’ (共産主義思想) と ‘붉은 마음’ (恋心) で ‘붉은’ の意味が異なるように、同じ色彩語でも、共起する名詞によって色彩語の「拡張の意味」は異なる。

今後の課題は、色彩語の他の品詞、形と、名詞とのコロケーションを検討し、色彩語の特徴を明らかにすることである。また、“21 세기 세종계획 균형말뭉치” (The 21st Century Sejong Project) コーパス資料の他の様式資料での色彩語の特徴を検討し、さらに、書かれた言葉と話された言葉で表現される色彩語の特徴を比較する必要がある。

### 参考文献

- 김영철 (2000) ‘우라말 관용어의 상징 의미 연구’ 전북대학교
- 김인화 (1986) ‘현대 한국어의 색채어 연구’ 이화여자대학교 석사학위논문
- 김주희 (2004) ‘국어 색채어의 분석 및 지도 방법’ · 주교육대학교 교육대학원 석사학위 논문
- 谷崎美津子 (2008) ‘한국어 색채 표현 교육 연구’ 서울대학교 교육학석사학위논문
- 송현주 (2003) ‘색채 형용사의 의미 확장 양상’ 경북대학교 “언어과학연구” 제24집
- 신현숙 · 김영란 (2004) ‘한국어 교육을 위한 색채어 어휘 정보’ “이중언어학” 제24호 二重言語學會
- 이은섭 (2008) ‘한국어와 일본어의 색채어 형성 대비 연구’ “이중언어학” 제36호 二重言語學會
- 임지룡 (2009) “국어 의미론” 서울: 탑출판사
- 채완 (2003) “한국어의 의성어와 의태어” 서울: 서울대학교
- 青山秀夫 (1966) 「朝鮮語の色彩形容詞に就いて」『朝鮮學報』第三十九・四十輯 天理: 朝鮮学会
- 李翊燮 · 李相億 · 蔡婉 (2004) 『韓国語概説』前田真彦訳 東京: 大修館書店
- 荻野綱男 (2009) 「コロケーション辞書」『国文學』第七十四卷一号 東京: 至文堂
- 金仁和 (2005) 「韓国語の固有派生色彩語の意味」, 筑波大学地域研究 25: 35-506
- サピア, E. · B.L.ウォーフ他著 (1970) 『文化人類学と言語学』池上義彦訳 東京: 弘文堂
- 權寧成 (2005) 「日・韓兩語の色彩語に関する対照言語学的研究」 広島大学大学院教育学研究
- 車美愛 (1990) 「韓国語の色彩表現- 日本語との比較の観点から」 『名古屋大学言語集』6 pp. 1-26, 名古屋大学文学部言語学研究室

- 崔貞伊 (2000) 「日本語と韓国語における基本色彩語の色カテゴリー及び色名の色彩学的研究」  
女子美術大学大学院美術研究科 博士論文
- 中西恭子 (2007) 「形容詞をめぐって」『韓国語教育論講座』第1巻, 東京: くろしお出版
- 南潤珍 (2006) 「日本語と韓国語の連語構造の対照分析に基づいた 韓国語教材の開発に関する  
研究」平成16年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2) 研究成果  
報告書
- 南潤珍 (2007) 「韓国語教育におけるコロケーション情報の活用」『韓国語教育論講座』第1巻,  
東京: くろしお出版
- 野間秀樹 (1990) 「現代韓国語の名詞分類—語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』第135輯 天  
理: 朝鮮学会
- 野間秀樹 (1990) 「朝鮮語のオノマトペ —擬声擬態語の境界画定, 音と形式, 音と意味につい  
て—」『学習院大学言語共同研究所紀要』第13号 東京: 学習院大学言語研究所
- 野間秀樹 (1991) 「朝鮮語のオノマトペ —擬声擬態語と派生・単語結合・シンタックス・テク  
ストについて—」『学習院大学言語共同研究所紀要』第14号 東京: 学習院大学言語研究所
- 野間秀樹 (1999) 『暮らしの単語集 韓国語』 東京: ナツメ社
- 野間秀樹 (2008) 「音と意味の間に」『国文学』第五十三卷十四号 東京: 學燈社

- Berlin, Brent and Paul Kay (1999) “Basic Color Terms, Their Universality and Evolution”  
Standford: CSLI Publications
- Lewis, Michael (2000) “Teaching Collocation: Further Developments in the Lexical Approach”  
Andover: Heinle
- Singleton, David (2000) “Language and Lexicon: An Introduction” London: Edward Arnold
- Sinclair, J. (1991) “Corpus, Concordance, Collocation” Oxford: Oxford University Press.
- Steinvall, Anders (2006) “Basic Colour Terms and Type Modification, Progress in Colour Studies”  
Philadelphia: John Benjamins
- Whorf, Benjamin (1956) “Language, thought, and reality” Cambridge: MIT Press
- Wyler, Siegfried (1992) “Colour and Language” Tübingen: Gunter Narr Verlag

## 辞書類

- 국립국어연구원編 (1999) “표준국어대사전” 서울: 두산동아
- 김하수의 (1969) “한국어교육을 위한 한국어 연어사전” 서울: 커뮤니케이션북스
- 두산동아 사서편집국 (1996) “메이트 한일사전” 서울: 두산동아

리형태, 류은중 (1993) “동의어, 반의어, 동음어 사전” 서울: 한국문화사  
민중서림 편집국 (1974;1996<sup>4</sup>) “옛센스 국어사전” 서울: 민중서림  
연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) “연세한국어사전” 서울: 두산동아

熊谷明泰他編 (2005) 『朝鮮語小辞典 朝和+和朝』, 東京: 白水社

朱信源 (2005) 『標準朝鮮語辞典』, 東京: 白水社

油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辞典』, 東京: 小学館

油谷幸利他編 (2008) 『小学館日韓辞典』, 東京: 小学館

## Modern Korean Color Terms : Color terms related to ‘ppalgang’ (red)

Suk Kyung CHANG

‘Akai’ (red) in Japanese may be expressed with 109 different basic color terms in Korean. This study examines modern Korean color terms in use, as they appear in the Korean corpus of the 21st Century Sejong Project (Written Part). 42 basic forms of the basic color terms related to ‘red’ were drawn from the corpus. It was found that 63 percent of the total color terms in use are of expanded forms derived from the original, and also 72 percent of the total color terms are used as adjectives.

Many studies have been done on the grammatical aspects of Korean color terms in isolation. However, not many studies are found on their meanings as they appear associated with other words in various contexts. This study attempts to find the characteristics of Korean color terms through lexical analysis using collocational information. Therefore, it investigates their usage and meanings when they are presented in different contexts co-occurring with other words.

As the first step of the analysis, color terms of attributive adjectives generally placed next to the head noun were examined. They are found to occur in collocation either with color designating usage or with figurative usage.

When the color terms are used to designate a hue perceptible to the human eye, the color term ‘bulgeun’ and ‘ppalgan’ are frequently used. And each tends to appear with particular nouns. Some of them tend to collocate with ‘bulgeun’ / ‘ppalgan’ and others with ‘bulgeun’ and ‘ppalgan’. In addition, the color term of expanded form, such as ‘bulgeurehan’, ‘sippeolgeon’, ‘saepalgan’, not only designates the color, but also describes its conditions in the context: its tones, negativity (uneasiness, fear, dislike), strangeness, uniqueness, mismatch, and so on. Moreover, it is found that a variety of facial color expressions are possible with Korean color terms. It is seen how each color term fits within ‘the context’ when ‘sippeolgeon’, ‘beolgeon’, ‘bulgeurehan’, ‘bulgeuseurehan’, ‘bulgeu-jukjukhan’, or ‘keombulgeun’ collocates with the noun ‘eolgul’ (face). Here, it should be noted that a color term does not always convey the same meaning. Depending on ‘the context’ or ‘the nouns’ it collocates with, its meanings vary in predictable ways. For an example, ‘sippeol-geon’ may be used to mean ‘fearfully red’, ‘strangely red’, or ‘very red’ depending on ‘the noun’ and ‘the context’.

When the color terms are used figuratively, they no longer designate a perceptible hue. A noun such as ‘jul’ (line), ‘keojitmal’ (lies), ‘sasang’ (thoughts), ‘sesang’ (world), or ‘maeum’ (heart), appears with a particular color term: ‘jul’ with ‘bulgeon’ / ‘ppalgan’, ‘keojitmal’ with ‘saeppalgan’, ‘sasang’, ‘sesang’ and ‘maeum’ with ‘bulgeon’. The color terms in these idiomatic phrases acquire meanings which are devoid of color. They may be replaced by ‘sippeolgreon’ making the expression rather personal and negative. The color terms in these expressions should not be changed neither to predicative adjectives nor to any other parts of speech, but always used as attributive adjectives. Finally, it is observed that the figurative meanings of the color terms are independent of ‘the context’ but dependent on ‘the nouns’ in collocation. As a result, the figurative meaning of a color term could vary with different nouns. For example, ‘bulgeun’ has the meaning of ‘hot’ or ‘communism’ when collocating with ‘maeum’ (heart) or ‘sasang’ (thoughts) respectively.

Further studies on Korean basic color terms are in the process and their characteristics are being found when used as other parts of speech. Comparative studies will be also necessary with color terms in different genres of the Sejong Corpus Project, which include the case of ‘spoken’ expressions.